

沾ひ壞て全からざるも妙に應ず、人力の及ばざる處なりと説話つゝ、行に、不多時陳家に到りければ、
 陳澄兄弟家裡の個々出迎へて正堂に請じ入れ厚く往昔の恩を謝して懽喜ける。當下莊上の人家這由を
 聞傳へ盡く來りて拜す。亦萬般の珍味を備て慇懃に管待ける。三藏師徒は西天にて仙品仙肴を食して
 より、全く凡世の食を要すと雖も、他輩が厚意を思ひ饒に食して止にけり。八戒も亦碗を把置我怎麼
 の故を知らず、脾胃一旦に弱りたりとて、遂に齋筵を收めさせけり。莊上の漁夫佃戸們三藏四衆の
 經を取り歸り給ひし説話を聞き、我親く活佛を拜す、那ぞ這上の僥倖有らんやとて、個々隨喜感歎し、
 且這地に長く住り、我々が供養を受給へとて強て住めけるにぞ、三藏他們が深志忍がたく、沒奈何其
 日は滯留し給ひけり。斯て其夜三更の頃に到り、三藏悄悄に行者を呼、這地の人家已に我輩が功業成
 就せるを知。古より真人は相を露さすと云り。斯る土地に久く在らば、怕くは大事を過つ事有らん。
 行者點頭て曰く、師父の曰ふ處大いに理なり。我輩半夜に悄悄に忍び出るに如じとて、八戒沙僧を呼
 醒し、路に出るの準備を令做れば、八戒前と大いに同からず、急ぎ起出這由聞て是理なりと點頭、頓
 て經包を馬に駄せ行李を擔ひ、經担を取り行者解鎖の法を行ひ、門を開き一齊に竊出で、東に向ひ
 て急ぐ所に、忽ち空間に聲有て、逃去の人快く我に追ひ來り給へと呼ばはりけり。是則ち八大金剛な
 り。三藏師徒是を聞いて懽喜、急ぎ亦祥雲に打駕て、一陣の香風を發し東に望んで飛び去りけり。
 徑回東土

五聖成眞

話表八大金剛祥雲を縦ち香風を發し、師徒四衆を送りて纔一日にして東土に到り、已に長安に近着け
 る時、金剛指さして曰く、此地既に大唐長安城なり。我輩像を現す事好からず、師父雲を下りて行
 給へ。徒弟們も從ひ行に及ばず。唯聖僧一個經卷を帝に獻りて後來り給へ。我輩爰に在つて待、同
 く西天に還べし。行者及び八戒沙僧聲を齊うして曰く、師父怎麼して經を挑ひ、馬を牽給ふべき。我
 輩俱に従ひ去べし。萬望は尊者少時待給へ。八大金剛の曰く、西天に於て觀世音菩薩八日の裡に往來
 し、一藏の數に合すべしと宣へり。然るに今既に五日を経たり。怕くは八戒富貴を貪り、日限を過つ
 事有らん。八戒笑て曰く、師父成佛し給は、我も亦成佛を望ざらん。今漫りに富貴を貪りて何にか
 せん。尊者心を安じ暫く爰に待せ給へとて、八戒經を挑ひ沙僧馬を牽、行者師父を扶け一齊に雲を下
 りけり。原來那太宗皇帝貞觀十三年九月望前三日、帝三藏に經を取來るべき旨を命じ給ひ、城を出
 して西に送り、其後十六年に工部官に命じ、長安城の西を望みて、一個の經樓を造立し給ひ、年々
 其地に行幸ありしが、正に這日復御駕を廻し、這樓上に御在ましける處に、忽ち西方空中より香風飄
 と發り、祥雲靄々と靉靄三藏師徒樓邊に下り來りければ、太宗驚き歡喜急ぎ樓を下りて、衆位の群官
 兩行排列し、是を迎へ給へば、三藏三個の徒弟を領列、雲を下りて地上に跪下て拜しければ、太宗則
 ち禮を受給ひ、頓て近侍の官に勅し、三藏を馬に上せて太宗御駕を廻し、大家朝に還り入り給ふ。斯

て朝中に到りければ、三藏三個の徒弟輩を呼、經卷を運せ、盡く皇帝に献上、亦關文を取出し奉上し、臣僧勅命に因て西天に到り、佛を拜し經を求め、當下歸朝致し候ふ。則ち經數三十五部、通計五千四十八卷、蓋此數合一藏なり。太宗皇帝大いに懽喜給ひ、不期も朕大乘の眞經を得ん事を思ひ、許多働を勞したりとて、近侍官に命じて彼經卷を件一に收め給ひ、亦關文を取りて披き看たまひければ、上首寶象國、烏雞國より、連々に車運國、西梁女國、祭賽國、朱紫國、比丘國、滅法國、亦鳳仙郡、玉華州、金平府等の寶印を盡く列ねたり。太宗曰く、西方靈山まで行程幾個ありや。三藏曰く、都て是十萬八千里と承り候ふ。太宗曰く、路上的極めて難爲多かりつらん。三藏則ち路上的千萬の艱難に遇し事を落もなく説話、西天大雷音寺にて佛を拜し、首め無字の經卷を要め、後有字の經卷を得し事、亦靈山の光景を演、其外行者、八戒、沙僧們が其出生を説、他輩が助に因て魔を降妖を伏し功業成就し、白馬が原身龍なる由など備細説話ければ、太宗首衆位の近士官聞事毎に讃嘆し、頓に東閣を開いて素筵を設け、三藏を請じて大いに管待、亦三個の徒弟輩をも宣給ひけるを、三藏告て曰く、他們三個は原山野の出生、一向に唐朝の禮を知侍す。萬望は是を赦し給へ。太宗曰く、苦しからず快く這へ導引來たるべしとて、衆官に命じて行者が輩三個をも俱に東閣に請じ入れ、同く宴を賜りける。斯て天晚に及びければ、遂に宴を收め師徒四個君恩を謝し閣を辭し退きて、古の持住の寺洪福寺に入り給ふ。這洪福寺に一樹の松有り、上首三藏西天に赴くの時、衆僧輩に誓て曰く、這松枝葉東

に向ふ事有らば、我歸り來るべしと云ひ置きて出給ひけり。其時は貞觀十三年望前三日なり。今年貞觀二十七年、其間十四年を経て、此程這松枝葉盡く東に向ひけるにぞ、偕は師父の歸り給ふ成らんと個々怪み有りける處に、一日經を取る僧歸り給ひぬと告來る。衆僧驚き且懽喜、急ぎ寺中を掃ひ旗幡を飾り、個々法衣を更めて門を出て待ちける處に、太宗皇帝數多の官士を差添て、三藏師徒を洪福寺に送り來る。寺中の衆僧皆出て是を迎へ入れ、個々禮畢りて頓て齋を備へ來る。三藏師徒纒に是を吃し終りければ、寺中の衆僧三藏師徒の座前に充滿して、天竺靈鷲山の光景、亦路上妖怪に遇火に焼れ水に陥入、萬般の艱苦の事など聽聞し、深更に及んで奥室に寢處を設け、安寐せ參らせけり。三個の徒弟這時既に道果を得たれば、十分穩和にして、一個も亂語騒ぐ者なく、其夜大家洪福寺に宿しけり。翌鳥三藏亦入朝して太宗を拜しければ、帝曰く、朕昨宵御弟の功廣大にして酬謝し難きを思ひ、幾句の俚談を綴りて權に且謝意を表するなりとて、頓て中書官に命じて是を寫しめ三藏に與へ給ふ。三藏是を頂戴し讀畢て大に歡喜、再三頭を叩て稱謝しけり。其文は今の世に傳ふる聖教の序則ち是なり。故に爰に略す。太宗亦御弟を鷹塔寺に拉ひ、眞經を演説せしめて聽聞すべしと、俄に鷹塔寺に行幸あり。鼓樂を奏し天蓋を捧げ、三藏は御駕に従ひ、三個の徒弟馬を牽て師父に續き、遂に鷹塔寺に到り給ふ。斯て三藏太宗に對ひ、主公眞經を天下に傳流給はんと思召ば、當に謄録副本を以て天下に布散給ひ、原本は深く珍藏し給ひ、漫りに輕褻し給ふべからずと奏しければ、太宗是を聞いて

朕能是を守るべしと曰ひけり。斯て三藏は太宗の命に従ひ、高臺に登りて真經を誦誦せんと爲給ふ處に、忽ち空中に香風を發し、八大金剛全身を現し、高く叫で曰く、聖僧誦誦を止て我輩に跟ひ、快く西天に歸らせ給へ。正に八日の日を違ふ事を過べからずと呼はりける。三藏是を聞て乍ち經卷を放下、太宗を再拜して曰く、臣僧今八日を限りて靈山に歸るべきの誓を做來れり。今より去つて佛祖に見え候ふなり。御餘浪は盡す侍へども、今より御暇を給はり候へと、云かと思へば忽ちに半空に飛騰りける。臺下に在りし三個の徒弟輩、白馬も俱に一齊に虚空に騰り、祥雲を踏で金剛に跟ひ、大家西方に向ひて飛去けり。太宗を首め衆官衆僧是を見て大に驚き、只管西の空を望んで禮拜し、遂に亦別に高僧を擇んで鴈塔寺に於て、水陸大會を執行し、大乘の真經を讀誦せしめ、幽冥の業鬼を濟度し、亦翰林院中書科等の官に命じ、數部の真經を謄寫め、遍く世界に布散させ給ひけり。今の世に到るまで、三藏の道徳を戴き尊敬ざるは無かりけり。却説三藏師徒は金剛と俱に雲に駕、西天に飛去けるが、果的往來八日の間に在りて雷音寺にぞ到りける。當下如來諸位の佛祖諸菩薩諸神等を盡く宣聚め、大雄殿上に排列せしめ、三藏輩四個を座前に呼出し、個々職を授けしめ給ふ。且三藏を寶蓮座近く宜給ひて曰ひけるは、聖僧爾が前生は我二徒弟金蟬子なり。爾説法を聽す漫に大教を輕するに依りて、爾が魂を貶て東土に轉生せしむ。今僕俸に我教に従ひ、經を取て東土に送りて其功廣大なり。因て用ひて爾に大職を加へ陞し旃檀功德佛と爲べしと曰ひければ、三藏是を聞きて大いに歡び、



再拜して佛恩を謝し一邊へ退きけり。如來亦行者を座下に呼給ひ、悟空備は五百年前大いに天宮を闢し、吾法力を以て五行山下に壓在たりしが、倅ひに今天災滿畢て佛教に歸依し、聖僧を守護し魔を捉へ怪を降し大功有り。因て用ひて備に大職を加へ、陞して鬪戰勝佛と爲べしと曰ひ、亦八戒沙僧を呼給ひ、猪悟能備古蟠桃會上に在つて、酒に酔仙娥に戯れ、其罪に因て下界に貶られ、身を畜類の腹に宿り、福陵山に在て妖怪となれり。然れども僥倖に我沙門聖僧を保守て、路上妖魔と戰ふの功あり。然れども懶惰にして、色情未だ泯されども、擔を挑ひ師父を助くるの功亦捨難く、備に大職を加へ陞して淨檀使者と爲すべし。八戒是を聞て口裡に低語て、他輩都て佛と成る。怎麼我一个淨檀使者と做やと云ければ、如來曰はく、備原食腸寬大にして大食を求む。今天下四大部洲我教に従ふ者數を知らず。凡そ諸衆の佛事供養の時、備檀を淨るの職に在らば、供養の品紋を受用し却て是好からずやと。亦沙僧に向ひ曰はく、悟淨備蟠桃會上に玻璃盞を碎き、下界に貶られて、流沙河に怪と成て人を吃す。然れども今我教に歸依し、聖僧を保守馬を牽、我山に來りて經を取るの助を做、其功に因りて備に大職を加へ、陞して金身羅漢と爲すべしと。亦白馬を呼んで曰く、備原西洋大海廣晋龍王の子にして、父の命に逆ひ不孝の罪ありと雖も、今釋教に歸依し聖僧を負我山に來り、亦經卷を馱て東土に還り、亦這に再び來る、這功德に因りて備に職を加へ陞して八部天龍長者と爲すべし。是を聞いて師徒四衆大いに歡喜、再拜して頭を叩て佛恩を謝す。如來亦揭諦に命じ白馬を牽せ、靈山の後厓なる化

龍池の中へ推入させ給ひければ、須臾の間に白馬毛を去り皮を除き、身長く成り頭上に角を生じ身中に鱗を發し、看々一條の金龍と成りにけり。掲諦金龍を寶前に領來れば、行者當下三藏に向ひて曰く、我今已に佛と成りて師父と一般なり、這後緊箍咒を念て我を苦困給ふ事も有るべからず、萬望は鬆箍咒を念へて緊箍を脱下して捨給へ。三藏曰く、昔し觀音菩薩曾て我に這法を教て備を制せしむ。今已に佛と成れり。那ぞ再び緊箍咒を念て備を苦困んや。且備快く頭を看よ。緊箍一向に有る事なし。行者手を以て頭を撫て見るに、何の程にか快く緊箍脱去て痕跡も無かりければ、行者懽喜事限りなし。是よりして四衆皆一齊に正果に歸し、天龍も亦正果を得て諸佛諸菩薩と諸俱に排列す。當下天華繽紛として降り、音樂四方に響き度り妙なる事云ふべからず。大衆皆合掌して這佛名を念て曰く、

- 南無燃燈上古佛
- 南無釋迦牟尼佛
- 南無清淨喜佛
- 南無寶幢王佛
- 南無阿彌陀佛
- 南無接引歸真佛
- 南無寶光佛
- 南無藥師琉璃光王佛
- 南無過去未來現在佛
- 南無毘盧智度佛
- 南無彌勒尊佛
- 南無無量壽佛
- 南無金剛不壞佛
- 南無龍尊王佛

- 南無精進喜佛
- 南無現無愚佛
- 南無那羅延佛
- 南無才功德佛
- 南無旃檀光佛
- 南無惠炬照佛
- 南無大慈光佛
- 南無賢善首佛
- 南無金華光佛
- 南無智慧勝佛
- 南無日月光佛
- 南無慧幢勝王佛
- 南無常光幢佛
- 南無法勝王佛
- 南無大慧力王佛

- 南無寶月光佛
- 南無婆留那佛
- 南無功德華佛
- 南無善游步佛
- 南無摩尼幢佛
- 南無海德光明佛
- 南無慈力王佛
- 南無廣莊嚴佛
- 南無才光明佛
- 南無世靜光佛
- 南無日月珠光佛
- 南無妙音聲佛
- 南無觀世燈佛
- 南無須彌光佛
- 南無金海光佛

99

99



終